

## 令和4年度第2回茅ヶ崎市青少年問題協議会 会議録

議題	<p>1 令和4年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく令和4年度事業報告及び令和5年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく事業計画について</p> <p>2 青少年の活躍できる場や機会について</p>
日時	令和5年3月24日（金）10時から12時00分まで
場所	茅ヶ崎市役所 分庁舎4階 会議室1. 2
出席者氏名（敬称略）	<p>会 長 佐藤光</p> <p>副 会 長 加藤大嗣</p> <p>委 員 岸正明、滝口友美、長谷川渡、木下操、須田譲、松本陽子、亀山愛子、高木英明、秋澤典亨、亀田実玖、大江雅美、木村千裕、赤坂雅弘、吉原弘子、岸宏司、竹内清</p> <p>（欠 席）菊地純子、齋藤里子、森井康匡、益淵隆徳、栗山仁</p> <p>幹 事 村上穰介、佐藤勇、内藤喜之、三浦克之、樋口剛、白鳥慶記、青柳和富、力石裕司、瀧田美穂、日高恭子、関山知子</p> <p>関係職員 鶴嶺公民館長 三井優子、青少年会館長 寺島薫子、体験学習センター所長 松下晃久、</p> <p>（事務局） 青少年課課長補佐 相澤牧 主査 加藤耕太、主任 小清水明香</p>

<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 茅ヶ崎市青少年問題協議会規則</li> <li>・ 茅ヶ崎市青少年問題協議会要綱</li> <li>・ 名簿、席次表</li> <li>・ 茅ヶ崎市青少年対策基本方針</li> <li>・ 茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく令和4年度事業報告</li> <li>・ 茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく令和5年度事業計画</li> <li>・ 文化芸術教育プログラム事業【新規】</li> </ul>
<p>会議の公開・非公開</p>	<p>公開</p>
<p>非公開の理由</p>	
<p>傍聴者数</p>	<p>0名</p>

○事務局より

- ・ 審議会所掌事務の説明
- ・ 委員の過半数の出席を満たし会議の成立（出席委員 17名）
- ・ 傍聴者の確認（傍聴者なし）

【開会】

○佐藤会長

おはようございます。まず初めに、議題1について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

議題1といたしまして、会議の運営について決定いただきたい点が2点ございます。

1つ目は、会議の公開、非公開についてです。茅ヶ崎市では、情報公開条例に基づきまして、審議会の会議については公開を原則としております。個人情報等の非公開情報を含む場合には非公開するということをございますが、今回の議事では個人情報の取り扱いがありませんので、公開とさせていただきたいと考えております。

2つ目といたしまして、会議録の形式についてです。会議録の記載方法といたしまして、発言については、摘録を原則とし、委員名を記載した上で、ホームページ及び市政情報コーナーで公表したいと考えております。会議録は事務局が作成し、公表前に各委員に内容を確認していただきたいと考えておりますがいかがでしょうか。

なお、議事録作成のため、ご発言される際は、職員がお渡ししますマイクをお使いくださいますようお願いいたします。事務局からの説明は以上です。

○佐藤会長

会議は公開、議事録は摘録とし、公表前に委員に確認いただくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

では、事務局案のとおり進めます。

続きまして、議題2、「茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく令和4年度事業報告及び令和5年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

## ○事務局

それでは、事務局より「茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく令和4年度事業報告及び令和5年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく事業計画について」ご説明させていただきます。

「茅ヶ崎市青少年対策基本方針」、「茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく令和4年度事業報告」の2ページをご覧ください。

こちらの議題につきましては、「茅ヶ崎市青少年対策基本方針」に基づき毎年設定しております「令和4年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針」に基づく各事業の今年度の実施状況についてご報告するものです。

主要な事業として取り上げた事業のうち、体験学習センターの事業と学校教育指導課の事業について、ご報告いたします。

## ○体験学習センター

体験学習センターの松下と申します。令和4年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく事業のうち、茅ヶ崎公園体験学習センターにおける自主事業について、ご報告いたします。資料は、本日机上配付させていただいております資料「令和4年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく主な事業」の茅ヶ崎公園体験学習センターにおける自主事業、ページ番号10ページになります。こちらをご確認ください。

茅ヶ崎公園体験学習センターうみかぜテラスにつきましては、本年1月に、開館から4年が経過しました。様々な学びや体験を通じ、子どもから高齢者まで、多世代交流を推進することを目的に、施設の貸出し、フリースペースの開放、自主事業を実施しております。

平成31年1月の開館から1年後には新型コロナウイルスのまん延により一時的な休館を余儀なくされましたが、その後も施設では利用制限を設け、対面型の主催事業を中止したため、本格的に事業を実施したのは、初年度以来ということになります。主要事業の実績は、10ページ中段に記載のとおりです。今年度は、今月末に予定している2つの事業を含めて、24事業を実施しております。このうち、17事業は実際に青少年の方にご参加いただいております。5月22日、29日の「姥島（烏帽子岩）の自然観察会」や、8月2日の「SUP・アウトリガーカヌー体験教室」は、海岸に近いという施設の特長も活用した事業となっており、申込み当日から応募の電話が絶えない状況でございました。

体験学習センターは旧福社会館、旧海岸青少年会館の複合施設としての位置付けもございますので、令和元年度の主催事業の多くは、旧海岸青少年会館の

事業を引き継いでおりましたが、新型コロナウイルスによる主催事業の中止を、逆に事業を見直す契機ととらえ、今年度は新たな形で事業を展開してまいりました。その中でも、日頃からうみかぜテラスを活動の場としている登録団体の皆様との連携は、今年度力を入れた取組の一つとなっております。

具体的には、登録団体の皆様が、うみかぜテラスで行っている活動内容を主催事業とし、当該団体の皆様に講師をお願いすることで、うみかぜテラスにとっては、施設の運営の一部を登録団体の皆様に担っていただける、登録団体の皆様にとっては、自分たちの活動の周知を図ることができるということで、双方にメリットがある形となっております。

この取組が功を奏した例として、ページ左下の取組の成果にあるとおり、5月15日にアロハマーケットの共催事業として開催した「フラダンス体験レッスン」では、うみかぜテラスでフラダンスサークルとして活動している団体の皆様に講師をお願いいたしました。ここでは、普段は登録団体の活動に参加している子どもたちが講師のアシスタント役に回り、参加した同じ世代の子どもたちや大人に演技を披露するなど、世代交流を図るのにふさわしい事業となりました。

同じく、10月10日に開催した「STT（サウンドテーブルテニス）を体験しよう」では、日頃、うみかぜテラスを活動の場とし、サウンドテーブルテニス（視覚障がいのある方の卓球）を行っている視覚障がい当事者団体の皆様に講師をお願いし、参加した中学生と実際に対戦するといった場も設定することができました。この日は、STTの体験の前に、視覚障がいの方の誘導體験も行っておりますが、他にも、福祉の理解につながるような講座を展開しております。

また、主催事業とは別に、4周年の取組として、2月11日にうみかぜテラスコンサートを開催いたしました。こちらでも発表していただいた12団体は、日頃からうみかぜテラスで活動している皆様でした。発表者は大人中心になりましたが、コンサートのチラシは、第一中学校の生徒さんが作成してくださり、コンサートの運営にも高校生がボランティアで参加してくださるなど、子どもたちが裏方で支えてくれた取組となりました。

このように、青少年にかかわる取組を挙げましたが、施設の利用者は高齢者層が中心になっております。一方で、新オーリーブ広場という屋外フリースペースや館内各種のフリースペースには、放課後、小・中学生がたくさんやってまいります。フリースペースなので、自由に過ごしていただくことに対しては問題ありませんが、ルールを守れなかったり、長時間ゲームに興じるなど、施設としても悩ましい状況を認識しているところです。

まだまだ新しい魅力ある施設なので、若い世代も取り込んだ施設の活用を引き続き検討してまいります。

報告は以上となります。

#### ○学校教育指導課

続きまして、主な事業のうち「学校支援・地域連携事業」について、学校教育指導課長よりご説明いたします。

資料「令和4年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく主な事業」の13ページをご覧ください。

目標・目的、事業内容等は記載のとおりとなりますが、学校・家庭・地域が一体となつての教育活動の実施が期待できる学校運営協議会制度「コミュニティスクール」について、これまでの取組と現在の状況等についてご説明させていただきます。

令和3年度にモデル校として設置した松浪中学校に続き、令和4年度は香川小学校、汐見台小学校、鶴が台中学校の3校に設置し、令和5年度は新たに7校の設置を予定しております。今後、令和7年度を目途に、市内全32校に設置する予定です。今年度実施した学校運営協議会の主な議題といたしましては、学校長が示す学校経営計画の承認や、学校評価アンケート項目、結果への対応をはじめ、学校教育の在り方、基準服の変更、地域行事への児童・生徒の参加など、各学校の諸課題について熟議が行われたとの報告を受けております。

教育委員会では、設置校での成果や課題等を踏まえ、管理職向けに制度への理解を図るための研修会を実施したり、担当指導主事が設置校において、学校評議員への説明や教職員への研修会を行ったりするなど、早い段階から支援を行っているところです。今後は、協議会の内容について広く情報共有を図っていくための工夫について検討するとともに、担当指導主事が協議会に参加するなどして、設置後の運営についても継続的に支援してまいります。

また、学校・家庭・地域が、それぞれ当事者意識をもって子どもたちの心身の健やかな育成を図っていくためには、関係の皆様のご理解・ご協力が欠かせないことから、学校への支援のみならず、学校運営協議会制度にかかる情報提供を積極的に行い、地域とともにある学校づくりの推進に努めてまいります。

私からは以上です。

#### ○事務局

令和4年度事業報告は、以上となりますが、引き続き、「令和5年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針に基づく事業計画」についてご説明させていただきます。

令和5年度事業計画の冊子をお手元にご用意ください。令和5年度茅ヶ崎市青少年対策取組方針につきましては、第1回青少年問題協議会の議事録送付とあわせ、案をお示しし、ご意見を伺った後、令和5年度事業計画の冊子2ページに記載のとおり決定いたしました。

この取組方針を基に、令和5年度に実施予定の青少年を対象とした事業を紐づけ、とりまとめたものです。令和4年度から継続して実施する事業につきましては、事業報告で課題となった点について改善等をしながら実施してまいりたいと考えております。説明は以上です。

#### ○佐藤会長

事業報告と事業計画の説明が終わりました。今報告があったもの以外にも、令和4年度の実績や令和5年度の計画についてご質問や来年度実施する場合のアドバイス等をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○滝口委員

令和4年度事業報告の14ページの課題として、学校教育間でのGIGAスクールでのタブレットの使用について、「使うことができる」「使うことができない」については個人の差があることは仕方ないと思うが、これに対して、今後の学校間、教員間の格差解消に対して取組があったら伺いたいと思います。

#### ○学校教育指導課長

はい、学校教育指導課長よりお答えいたします。GIGAスクール構想に伴い配備した一人一台端末の活用については、配備前から担当指導主事を中心に各学校において教員への使い方のレクチャーや研修会を積極的に行ってまいりました。また、実際の活用が始まってからも、学校の要請に応じて指導主事の派遣、本課で持っている研修会等でより具体的な活用方法を周知することで一定程度の活用は進んでおります。調査の中では、本市の活用率は全国と比べても非常に高いものとなっております。ただ、その高い数字に注目するのではなく、一部まだ十分に使い切れていない教員であるとか、学校の差であるとか、そういうところに注目しながら、これまでも研修会を引き続き実施するとともに、学校内での教員間格差がなくなるよう、校内研究を支援するための助言等を続けてまいりました。使わねばならないではなく、使ってみたいと教員が思うように、今後もより具体的な活用方法や、ICT支援員等も十分に活用しながら研修の充実に努めてまいります。以上です。

#### ○木下委員

使い慣れるのは時間がかかりますし、それが早い遅いというのが悪いわけではないというのはわかっています。使うことによって普段発言できない子たちや、目立たない部分にも光を当てるとか、そういったことが逆に、学力の面だけでなくいろいろな面での評価ができ、その子の持ち味が輝くことにもつながると思います。そういうところに今後活用されていくという認識でよろしいでしょうか。

#### ○学校教育指導課長

ご指摘のとおり、これまで教員の問いかけに対し挙手をしながら答えるというのが、数十年にわたり昔からの教室の姿でございました。その中で、近年子どもたち同士の学び合いというのが進んでいく中で、GIGAスクール構想に伴い配備した一人一台端末が学びの形を非常に広げることになっていて、只今ご指摘いただいたとおり、なかなか手を挙げるのが難しい子どもなど、そういった多様な子どもたちの学びの過程を支える重要なツールの一つとして、今後更に可能性が広がるものであると考えています。あわせて、学校になかなか足を運ぶことのできない不登校の児童・生徒に対しても、実際家庭とのつながりができるとか、別室で学習している生徒と教室をつなぐなど、学校の実情に応じて様々な工夫がなされておりますので、そのような各学校の工夫を共有することで、学校間格差、教員間格差が無くなるよう努めてまいります。

以上です。

#### ○吉原委員

社会教育委員会議の吉原です。令和5年度の事業計画の方でよろしいでしょうか。まず、16ページの令和5年度茅ヶ崎市青少年教育相談事業ですが、この2年、3年はコロナ禍でなかなか学校に足を運べない児童・生徒が多くなったようなこともありまして、全国的にいじめや不登校の児童・生徒が多くなっている中で、茅ヶ崎市も全体的に上がっているのではないかなという話も耳にしておりました。市の数字が上がっているということを先生方が、非常にきちんと小さいことから見つけてお忙しい中でも児童・生徒と向き合って対応してくださっているということで、保護者としても嬉しいと思いますし、子ども達も自分から言えないことを先生方から「どうしたの？」と声を掛けてくれる嬉しさというのがあるのではないかなと思います。数字より中身の部分が大事なので、是非これからも子どもたちに寄り添って聞いていただけるような体制をとっていただければありがたいと思います。



私自身は、地域の大人として何かできることがないのかなと探しますが、団体に属していないのでなかなか日々の活動で子どもたちと対面することがありません。ただ、見守りを一週間ごとにやっております、その時にだんだん子どもたちが「あそこにいつも立っている大人のおばさんなのだ」と思うようになり、「おはよう」や「おかえり」という言葉を交わすことで、お正月には「おばさん、おめでとうございます」と言ってくれたことがありました。これは、継続することで顔を覚えてもらえる、地域の大人なのだ覚えてもらえるということで、これでわたしも地域の中で貢献できているのかなと。更に大人として子どもたちのためにできることがないのかなと模索しています。ぜひ、先生方には子どもたちに寄り添っていただきたいなと思います。

もう一点、令和5年度の9ページ「博物館」です。みなさんもお存じだと思いますが、北部にとっても素晴らしい博物館ができて、多くの市民の方たち、また市外の方たちが来ていただいているとお話を聞いています。社会教育施設の活用という部分では、あそこを拠点として、北部の谷戸や里山、神社仏閣があり、歩いて回る七福神巡りなどをすることもできます。今は本当にきれいに並んでおりまして、やはり1日滞在してしっかり見て学んで楽しんで帰るといった場所にしてほしいと思います。ぜひ博物館を中心とした楽しい体験学習を推進してほしいと思います。博物館には学芸員さんもいらっしゃいますので、ぜひ出前講座のような形で小学校などに出て行っていただいて、また地域の大人の皆様も、そこに行かなくても地域の中で学べるような場所が今後更に増えていくと思いますけれども、博物館がせっかくできましたので、是非有効活用していただければなと期待をしております。以上でございます。

#### ○佐藤会長

ありがとうございます。文教大学の皆様とも協力をしつつしっかりと北部を活性化してまいりたいと思います。他にご意見ある方はいますか。

#### ○木下委員

民生委員・児童委員協議会の木下と申します。よろしく願いいたします。私の方からお尋ねしたいことは、令和4年度の13ページです。だいぶ前から地域と学校が一体となってという言葉が言われていますが、なかなか難しい部分もあるのではないかと思います。この取組の実施のために地域活動団体との連携など新たな活用について、家庭支援も含めて支援推進者の厚みを増す工夫などありましたらお聞きしたいと思います。

また、先程吉原委員がおっしゃいました地域でできることは、大人たちが、

子ども達の安全・安心を守るとともに、子ども達の心を育てる、それに関わる地域の大人たちの役目があるのではないかと思います。各地区が児童・生徒へ向けて子どもたちの心を育てる意識を持って、見守りなど、ちょっとしたことが始まりとなり、顔なじみとなっていくことが地域の良さだと思っています。それが当たり前のようにしていけたらと思っています。

#### ○学校教育指導課長

学校教育指導課長より申し上げます。先程も報告させていただきましたコミュニティスクールについては、全校設置に向けて令和7年度を目途にということが始まったばかりであり、先進的に導入している自治体においても導入してすぐ効果が現れるわけではなく、軌道に乗るまで時間がかかると言われています。ただ、地域とともにある学校という点で、学校が願う、地域が願うといった、一方通行ではないような形で子どもに関わる大人全てが当事者意識を持ち子どもたちを育てていく。そういったことが地域の、学校の将来のあるべき理想の姿だなというように思い、担当課としても取り組んでいるところです。当然、新たなことを行うと負担感や、必ずしもすぐに結果が出るころではないけれど、担当課として、わたしはこの取組を始めるときに、こんな学校、地域ができたなら子どもたちにとってどんなにいいだろうと考えました。このような教育委員会、教育行政、そして学校の想いを、ここにいらっしゃるみなさんをはじめ、子どもたちを見守る地域のみなさんと、まず、目指すべきゴールを共有することが大事だと思い、先程の報告の中でもあったとおり、今後積極的に周知を進めていくながら、共に作り上げていきたいという思いがございます。以上でございます。

#### ○木下委員

ありがとうございました。地域とともにということは本当に大事なことだと思っています。私は時々学校の管理職の方に、「学校では先生方はお父さんお母さんになってあげてください。地域では、わたしたちが、おばあちゃん、おじいちゃんとして子ども達を見守り、守っていきたい。」と、時々言わせていただいています。学校と地域が意識をもっと高めていかななくてはならないのではないかと。少しずつではありますが、広めさせていただいているところがございます。ありがとうございました。

#### ○佐藤会長

他にありませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、議題3「青少年

の活躍できる場や機会について」に移らせていただきます。事務局から説明してください。

#### ○事務局

それでは、事務局より「青少年の活躍できる場や機会について」、ご説明させていただきます。

昨年行われました令和3年度第1回茅ヶ崎市青少年問題協議会では、「新型コロナウイルス禍における青少年の現状について」を議題とし、各関係団体における取組やウィズコロナの中でどのような取組を行っていくか、情報交換いただきました。その中では、子どもたちが安心して自分を発揮できるよう、子どもと関わる大人がさまざまな人や物事につなげていくことが必要であるといったお話がありました。

令和4年度に入りまして、11月に行われました第1回青少年問題協議会では、「青少年の居場所について」を議題とし、各部署や関係団体が日ごろの青少年との関わりの中で、見聞きしている青少年の居場所にはどのようなものがあるか、どのような居場所があればよいと考えるか等について意見交換していただきました。インターネット上のつながりが居場所になっていることがわかり、また、子どもたちが得意とすることを見せられる場があるとよいといったご意見もありました。

今回は現委員の皆様による最後の会議となるため、これまでの議論を踏まえ、青少年が現在どのような場で活躍しているか、今後、地域等で活躍するために、必要なこと、課題となること等について、それぞれの関わりの中から意見交換していただきます。より多くの青少年が、地域や団体での活動を通じた活躍の機会が得られるよう、青少年の参加を促し、青少年の現代的課題に対応した魅力ある場や機会の充実が望まれます。青少年が社会との関係の中で自己実現を図ることができるような場や機会について、それぞれが検討する契機とします。なお、今回の議題における「青少年」の主な範囲は、委員の多くが日ごろから関わりをもっている対象を考慮し、6歳から18歳までとします。

まず初めに行政における取組について、ご紹介させていただきます。

#### ○青少年課

青少年が活躍できる場や機会について、青少年課より、2つの取組を紹介させていただきます。

ひとつ目は、ジュニアリーダーです。市では、新中学1年生を対象に、地域における青少年リーダーを育成するため、「ジュニアリーダー養成講座」を開

催しています。ボランティアスピリットや安全に活動するための知識や技術、ゲーム等を学び、ジュニアリーダーとしての基礎知識を体得してもらいます。この講座を受講した後、希望により茅ヶ崎市子ども会連絡協議会に属する茅ヶ崎市ジュニア・リーダーズ・クラブに入会し、ジュニアリーダーとしての活動をしていただいています。

ジュニアリーダーの活動のひとつとして、青少年課で実施している小学生向け体験活動事業への参加があります。事前研修で、初対面の小学生たちが打ち解けられるようゲームをしたり、野外炊事で小学生をサポートしたり、キャンプファイヤーのプログラムを実施したりしています。リーダーシップを発揮して、小学生をリードする場面があったり、輪に入れない小学生に個別に声掛けをして、輪の中に入れたりする場面があるなど、中高生がその時々に必要な対応を自ら考えて行動している姿が見られます。

小学生にとっても、大人ではなく年齢の近い中学生や高校生がサポートしてくれる姿を見て、自分もあんな風になってみたいという気持ちになり、自然な流れでジュニアリーダー養成講座の受講につながるよう、事業を組み立てています。

また、高校3年生でジュニア・リーダーズ・クラブは卒業となりますが、その後、大学生や社会人となったジュニアリーダー経験者が「シニアリーダー」として活動しています。「ジュニアリーダー養成講座」の講師や、ジュニア・リーダーズ・クラブの内部研修講師を引き受けることもあり、学業や仕事の合間を縫って、中学生、高校生のサポートをしています。

ジュニアリーダーや、シニアリーダーからは、「自分が小学生の頃に子ども会に来てゲームをしてくれたお兄さんお姉さんの姿にあこがれ、ジュニアリーダーになりたいと思った。」や、「子ども会からの派遣を受けたときに、子ども会の役員さんや、地域の方から『子ども達がとても楽しかったと言っていた。ありがとう。』と言われたことが嬉しく、心に残っている。」、「ジュニアリーダーの活動を通して、人前に出てみんなを楽しませる仕事がしたいと思うようになった。」といった声がありました。

茅ヶ崎市ジュニア・リーダーズ・クラブやシニアリーダーの枠組みが受け皿となって、青少年の活躍の場や機会となっています。コロナ禍で活動が思うようにいかない年もありましたが、これまで培ってきた仕組みを絶やささないよう、市として継続して青少年リーダーを育成していくために、小学生向け体験活動事業とジュニアリーダー養成講座のつながりを意識し、事業を展開しています。

二つ目は、はたちのつどい実行委員会です。はたちのつどい実行委員会は、例年1月成人の日を開催する「はたちのつどい」に向け、前年の5月頃から活

動を行います。市内14校の中学校長の推薦により集まった20歳の実行委員と、公募で応募した委員を加え、月に1度の会議を行い、「テーマ」や「記念事業」を決定していきます。

令和4年の実行委員は、「コロナ禍で影響を受ける市内企業を積極的に利用することで、地域を活性化したい」という思いから、新たな記念事業として、新成人が地元企業を利用することで割引や特典を受けることのできる「EBO SHI PASS」というパスカードを発行しました。

協賛をいただくために、地元企業へアプローチをしたり、周知のために茅ヶ崎市観光協会様や商工会議所様にご協力をいただきながら、企画検討を重ね、自ら店舗や会議に出向いたりした経験により、実行委員からは「地域の方とたくさん関わることができて、茅ヶ崎を更に好きになった。」「実行委員の仲間と協力してひとつのものを作り上げること、人前に立つこと、友人に「良かった」と声をかけてもらえることのやりがいと経験は大きかった。」といった感想がありました。

令和5年の実行委員は、「未来へ羽ばたいていく茅ヶ崎市の二十歳を祝うと共に、20年間傍で支えてくれた地域の方々や家族への感謝の意を表する特別な催しを行いたい」という思いから、クラウドファンディングで資金を募り打ち上げ花火を実施しました。

実行委員からは「規模の大きな企画を自らの手で進めていることに達成感を感じることができた。」や、「一生に一度の式典に実行委員として携わることができてよかった」といった感想がありました。

はたちのつどい実行委員の取組を見ていると、コロナ禍以前は自分たちが楽しめる企画を。という考えが中心でしたが、この2年は自分たちだけでなく、地域のために何ができるか、地域の方へ感謝を伝えたいといった考えが自発的に出てきています。

ジュニアリーダーとしての活動や、はたちのつどい実行委員会のように青少年期に地域で多くの人々に支えられながら活躍する経験を通じて、地域に愛着を感じ地域社会へ参画・貢献する意欲を育てていけるきっかけとなる取組を今後も続けてまいります。

青少年課からは以上です。

#### ○文化生涯学習部長

続きまして、文化生涯学習部より、ご紹介させていただきます。文化生涯学習部の文化生涯学習課が担当しております、「文化芸術教育プログラム事業」についてです。こちらは、子ども達と、プロフェッショナルのアーティストな

ど、文化・芸術・技術そういったものに関わるプロと子ども達が結びつくことで何か新しい気付きや発見に結びつけていけたらいいなということで始める事業でございます。資料の3番に事業内容を書かせていただいておりますが、市民文化会館、美術館、松籟庵を指定管理者である公益財団法人の茅ヶ崎市文化スポーツ振興財団にお願いをしております。この財団が長年にわたり様々な事業を展開しております、いろいろなアーティストであったりいろいろなスタッフであったり、職員の中にプロフェッショナルな専門の者もおります。そういったネットワークを活用し、体験型メニュー、鑑賞型メニュー、その他のメニューといった形で提供して子どもたちに触れていただきたいというものでございます。財団が主体となって事業として行うというものでございます。体験型メニューとしては、小学校や中学校の体育館にアーティストを呼んで一緒に体験する、というものです。例えば音楽をただ聴くのではなく、楽器を作るところから始め、その作ったものを一緒に演奏するなど、あるいは演劇のメニューでは演劇を作るところから始めるだとか、あとは普段あまり関わることのない落語や能といった伝統芸能と一緒に体験するメニューもあります。

2番目の鑑賞型メニューとしては、同じく小学校や中学校の体育館にアーティストが来て、それを鑑賞するといったものです、

また、対象が学校の先生に限られてしまいますが、美術館にお越しただいて、そこでプロフェッショナルな学芸員から様々なレクチャーを受けていただいて、それをまた学校で子ども達に伝授していただくメニューもございます。

また、その他のメニューとして、学校の調理実習室に和菓子の職人さんをお呼びし、日本の暦や自然、素材に触れながら、季節感を大事にする和菓子を作るといったものがあります。和菓子の作品自体もアートというべきものはたくさんありますので、そういったところに触れていただいで一緒に楽しんで何か感じてもらうといったメニューもあります。これはその他のメニューとして令和5年度から実施してまいります。

以上でございます。

## ○スポーツ推進課

続きまして、スポーツ推進課より青少年を中心とした次世代育成の事業につきましてお話をさせていただきます。スポーツ推進課の佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。

コロナ禍の影響がございまして停滞しておりましたスポーツ事業ですが、コロナ後の日常生活を見据えまして、スポーツを通じて次世代の育成、活力ある地域社会の実現をしていくために行っていくものでございます。スポーツの推

進につきましては、子どもからシニアまで幅広く行っていくという事は変わりありませんが、次年度以降におきましては、特に青少年を対象とした次世代の子ども達の育成に力を入れていきたいと考えているところでございます。

例といたしましては、中学校の体育連盟が運営母体となっております市総合体育大会の中学生の部や小学生の種目につきまして、これまでコロナ禍ということで休止しておりましたが、復活をし、より多くの種目の開催や、参加しやすい体制を作っていきたいところです。また、ジュニア向けの教室についても、文化スポーツ振興財団、また各施設の指定管理者とも連携を図りながら今まで以上に進めてまいりたいと思います。

更に、競技スポーツ以外についても、子ども達がスポーツを始めるきっかけ作り、また仲間との交流による継続、本市出身のアスリートをリスペクトして次の高みを目指していくことを念頭にした次世代の子ども向けの事業を展開していきたいと思います。その中でも、令和4年度に試行的に柳島スポーツ公園で実施をした湘南キッズスポーツフェスタをベースにし、ホームタウンチームや本市中心のトップアスリートにご協力いただきまして、子ども達がトップアスリートに教わることでスポーツの楽しさに触れていけるような取組を行ってまいりたいと思います。

今回新たな事業といたしまして「トップアスリート連携事業」につきましては、全国大会等への祝い金制度をブラッシュアップし、オリンピック・パラリンピックの種目ごとの世界大会やアジア大会で優勝するなどした選手を対象に応援金をお出しするものです。現在、これらに該当する若い世代の選手が何人かいらっしゃいます。該当者については、茅ヶ崎スポーツアンバサダーとしての役割も担っていただき、日常のスポーツ活動を通じて本市の魅力を対外的にPRしていただき、トップアスリートとしての技能や、心構えなどを、イベントなどを通じて次世代の子ども達に還元していただくような活動をお願いすることを考えております。これらを中心に据えながら、各事業の実施が次世代への良い循環につながるような事業を実施していきたいと思います。また、スポーツ推進課といたしましては、体育施設を単に運動する施設としてだけでなく、青少年の方々のコミュニティの場として、自宅や学校、職場とは離れた第3の場、心地の良いサードプレイスとして捉え、スポーツ活動を通じて青少年の育成にこれからも寄与していきたいと考えております。ありがとうございました。

○佐藤会長

説明が終わりました。委員の皆様からご質問等がありますか。

○須田委員

茅ヶ崎市子ども会連絡協議会の須田です。

青少年課の方で話があったジュニア・リーダーズ・クラブを青少年の活躍の場として重要と位置付けているということで、ありがとうございます。一点、懸念ですが、コロナ以前に自然体験・遊び体験と言っていた今の小学生リーダー養成講座について、復活はできたものの滞ってしまっているのではないかと心配しております。今回についても、定員20名に対して20名に満たない参加者しかいないということで、資料の方では課題として挙げていただいています。具体的に何か考えていることはあるのでしょうか。個人的な意見ですが、以前は遊び体験教室や自然体験教室ということで、子ども達が楽しむ場という印象があったけれど、今回の小学生リーダー養成講座というネーミングが堅すぎるという気もしました。その辺も含めてご教示いただければと思います。

#### ○青少年課

今回確かに事業への申し込みの数が少なかったことは課題として認識しているところです。その要因のひとつといたしましては、まだコロナが継続していた点や、周知については市広報紙ですとか、ホームページ、ツイッター等SNSを活用した周知に努めてまいりましたが、そういった中でなかなかダイレクトなお届けができていなかったのではないかとということが反省点として挙げております。今後の取組といたしまして、市の方で新しく始めましたLINEのセグメント配信というターゲットを限定した形で配信ができる仕組みができましたので、そういったものを活用し周知に努めてまいります。事業の名称について、ご指摘をいただきましたが、以前は自然体験教室・遊び体験教室といった名称で実施しておりましたが、その中ではキャンプをすること自体を目的とした参加となってしまっていたことが課題になる面もございました。そういった課題もあり、市として事業の実施目的の中にはジュニアリーダーの養成に繋げていきたい、キャンプに参加した子どもたちがジュニアリーダーを目指してほしいといった、そういった事業のスキームを考えた中で実施しているところもございます。今回、実施計画が変更となった段階で事業名を変更し整理をしたところもございますが、募集のチラシ等では少し表現を改めるなど、次年度の実施方法について検討してまいりたいと考えております。以上です。

#### ○須田委員

ありがとうございました。コロナの以前は、募集の定員について少なくとも40人程度いたと思いますが、今回は20人と少なくなっています。募集の人



員は増やしていくご予定はあるのでしょうか。

○青少年課

来年度につきましては、コロナ禍ということもあり、定員については若干増やすのみとなっております。以上です。

○須田会長

ありがとうございます。ジュニアリーダーの方たちは、小学生リーダー養成講座で見たお兄さんお姉さんに憧れてジュニアリーダーになるということがあります。わたしの娘も小学4年生の頃から遊び体験教室・自然体験教室に参加させていただいて、そのままインリーダー、ジュニアリーダーと8年間くらい楽しく活動させていただきました。ぜひ、そのように子どもたちに感動を与えられるような形の活動をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○松本委員

青少年指導員連絡協議会の松本です。

20年近くこういった青少年課の事業に携わってきて、ジュニアリーダーの育成というところもかなり精査されたといいますか、上手に育成ができていないかなと感じるところです。実際に研修事業に参加した子どもたちがジュニアリーダーになる割合が結構高くなってきているのではないかなと思います。また、ジュニアで活躍した子どもたちがシニアという形でサポートしている形も本当によくできていると思います。先日、湘南地域の会議があり、情報交換をしたときに、他の市町でジュニアリーダーがコロナで活動ができず、人数が減ってしまっているという報告がありましたが、その中でも茅ヶ崎は頑張っているのではないかと考えています。

本当に、全体から見たら数少ない子ども達ですが、その中でも一生懸命自分の役割を考えて活動しているのではないかと考えています。

また、はたちのつどいの実行委員会ですけれども、本当にその年のメンバーによって会議の進み方がまちまちな様子は見取れるのですが、最近は公募の実行委員も増えてきて、いろいろな企画が活発になっているのはいいことだなと思っています。いい形で更に地域を応援するという気持ちも生まれてきているということなので、続いていくといいなと思っています。以上です。

○佐藤会長

ありがとうございます。

○吉原委員

質問をひとついいですか。社会教育委員の吉原です。今、須田委員と松本委員よりジュニアリーダーのお話がありましたが、子ども会に参加している児童しか参加できないのでしょうか。子ども会に入っていないなくても、そういったことに参加したいと思った子どもも参加できるような形になっているという理解でよろしいでしょうか。

○青少年課

はい。今は子ども会に加入していないお子様でも、申し込みができるような形で募集しております。

○吉原委員

ありがとうございました。

○佐藤会長

他によろしいでしょうか。

○滝口委員

先程文化生涯学習課で和菓子をやられるというお話がありましたが、それを例えば別の事業との異文化交流という部分で、海外から来られた方に教えることや、海外の文化を教えてもらうなど、せっかく日本の伝統を習っているので、それをまた誰かに伝えていくような、次のステップへ活かしていけるものがあればいいなと思います。また、文化部もスポーツ部もみんな一生懸命やっているので、そういう子たちが何か地域のいろいろな行事でスポーツを教えたり、楽器を披露する等地域に部活のメンバーが出ていくような展開も良いのではないかと思います。

○文化生涯学習部長

ご質問いただきましてありがとうございます。文化生涯学習部長の村上でございます。和菓子の件について、おっしゃるとおりでして、学んだら学びっぱなしではやはりもったいないので、どこかで繋げていく取組ができれば素晴らしいかなと思います。まずは来年度新規事業として始めていきます。実際にこのメニューを選択していただけるかどうかはわかりませんが、そういった次の

展開も考えた上で事業を計画していきたいと思っておりますので、いただいたご意見を持ち帰り、財団と共有することで今後を活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

○佐藤会長

他によろしいでしょうか。

○赤坂委員

教育長職務代理者の赤坂と申します。今日は学生の委員さんが出席されているので、是非、6歳から18歳の子ども達が茅ヶ崎で活躍するために必要なこと、課題となることについて聞かせてもらえないでしょうか。

○亀田委員

文教大学学生の亀田です。今年1年間、ゼミで茅ヶ崎市の中学生のスポーツチームに、スポーツ栄養管理という点から関わらせていただきました。そのチームが結構大きな大会に出場したと聞いて、そういうところでも青少年の活躍の場を大学生も提供できると感じ、大学生も活動できる力を持っているので、ゼミという観点から更に積極的に行動できたらと思いました。以上です。

○秋澤委員

文教大学学生の秋澤と申します。よろしくお願いたします。

新型コロナウイルスの影響もあり、地域の方々との触れ合いは子ども達の中でも少なくなっていると感じています。そういった中で、先程青少年課からお話のあったはたちのつどい実行委員では、参加した方々が「地域と触れ合うことで茅ヶ崎が更に好きになった。」や「地域の人と触れ合う機会を得ることができた」という声や「規模の大きい行事に携わったことで達成感を得られた」という感想もあり、この取組を通して地域の方と触れ合うことができたり、達成感を得ることのできる機会を得ることができているので、非常に良い取組だと考えます。今後もこういった取組を続けていくことで青少年と地域との触れ合いの機会となっていくのではないかと思います。

○赤坂委員

ありがとうございました。参考になりました。

○佐藤会長

とても立派な意見でした。ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

それでは、ここからは、委員の皆様が日ごろ見聞きしている青少年が活躍している場や機会、今後地域等で青少年が活躍するために、必要なこと、課題となること等について情報交換していきたいと思います。

では、加藤委員から順番に、恐縮ですがおひとり2～3分くらいでお願いします。

#### ○加藤委員

活躍する場としていろいろな機会を提供するというはとても良いことだと思います。青少年のリーダーや、和菓子の職人の指導を受けることで将来的に茅ヶ崎に和菓子のお店を開いたりするなど、若い人のいろいろな夢や可能性が広がってくると思いますので、そういった夢を実現できる場をこれからも提供していただければと思っております。ぜひよろしく願いいたします。

#### ○岸委員

岸正明です。コロナ禍でいろいろなイベントが少なくなる中で、青少年の参加できる場所が少なくなっているのかなと感じています。年に一回の地引網も、網元が躊躇している状況で、いつか再開できればと思っております。そこに地域の子ども会も参加していただいていたいました。子ども会からも、「やるのですか？」という問いかけを受けますので、やはり楽しみにしているのだなという印象です。できる限り子どもが参加できる、いろいろな団体を巻き込んだ中で青少年の皆様が参加できる体制を作ってまいりたいと思っております。以上でございます。

#### ○滝口委員

文化教育常任委員長の滝口です。実際に災害があったときに家にいる小学生や中学生の子どもたちが、防災訓練に積極的に参加して頼もしくやってくれていると感じています。更に広げていただければと思います。

また、青少年課で行っている宇宙教室では、宇宙教室に参加した子どもたちが更にリーダーとして活躍してくれているというところを間近で見せて、更に広げていただければと思っております。以上です。

#### ○長谷川委員

保護司の長谷川です。どうぞよろしく願いいたします。

私たち保護司会の協力会としてBBS会というものがあります。それは文教大学の学生さんたちが、罪を犯した子どもたちのために勉強を教えているという会です。今、文教大学の生徒さん約25名にやっていただいています。しかし、対象者の中ではなかなかそういったところに行かない子どもが多くいます。やはりそういった、勉強を人から教えてもらうような子どもだと立ち直りが早いのですが、非行のある友達の方に行ってしまう子どもの方が多いのです。今年は、少年は昨年より少なくなってきました。理由としては、暴走族が少なくなっているということがあります。それと反対に、ほとんどの子どもが覚せい剤と絡んでいます。いま保護司会では、中学校や高等学校に県の覚せい剤の犯罪防止委員の方々が、覚せい剤の怖さなどを指導する取組を行っておりますので、学校の方では是非うちの方にも来てほしいという学校があれば伺います。よろしく願いいたします。以上です。

#### ○木下委員

民生委員児童委員協議会の木下と申します。私の方からは、先程滝口委員からも出ましたが、日中地域にいるのは高齢者と中学生、小学生ということで、小学生はなかなか難しいところがあるかもしれないけれど、有事の時に中学生の力を借りたいということで、これからは、中学生に自分たちができることが何かを学んでもらいながら、地域への参加を求めていきたいと思っています。既に教育長にはお話をさせていただきましたが、中学校の生徒さんたちに、自分たちが地域の中で役立つことは何かを学び、有事があったときにそれが実践できるような形でつながっていくと、「自分たちも人の役に立てるのだ」という実感がかなり大きな成長の糧になっていくと思っております。ですので鶴嶺中学校、円蔵中学校の校長先生には個別にお話をさせていただいて、令和5年度そういった事業に関わるつながりを考えていくということで、いままでの一般的な防災対策課が作っている白書ではなく、白紙から作り上げて、子ども達にも安心して学んでいただけるような体験を考えておりますので、よろしく願いいたします。

隣で覚せい剤の話が出ましたが、私からは県所管の児童相談所の虐待受付件数について。令和3年度は6,742件の相談数がありました。令和4年度は先週の時点で7,000件を超える相談件数があるということでした。本当に子どもたちが何も言えないで悩んでいる姿も見てきました。地域の活動として学校と連携していろいろとやってきておりますが、家児相と中央児相が今よりもより連携を深めていただきたいです。小学生が実際に親から暴力を受け、警察に行きたいと言いに来られている現状もあります。一方、ひとり親世帯に、

元父親や母親の彼氏が転がり込んできて、そこで暴力を振るわれ、大変な思いをしている姉妹や、リストバンドをしたりあざを作っている姉妹がいて、学校としても深く関わったりさせていただいているところです。地域の中で、これから子どもたちが体験する喜びや楽しさを学ぶことについて今までお話がありました。そういった厳しい現状も茅ヶ崎市にはございます。そういったところで、私たちの見守る目が重要になってくると思います。気づく目としては、やはり学校の担任の先生が気づくところではないかと思っております。なかなか親に言えない苦しさを抱えている子たちも多くいるということで、見守る眼差しをそれぞれの関係者がより大事にしていただければという願いも含めて、お話させていただきました。ありがとうございました。

#### ○須田委員

茅ヶ崎市子ども会連絡協議会の須田です。お世話になっております。子ども会としては、今まで子どもたちに楽しい活動の場を安全に、ということで安全教育に力を入れていたのですが、昨今のニュースの中で児童・生徒の自殺者の数が過去最大を記録したというニュースを見ました。やはり、子ども会活動や小学生リーダー養成講座といった事業で顔見知りになった子ども達というのは、街中で会っても「おじさんこんにちは。」と言ってくれるようなことがあり、そういった形で子ども達の孤立は防げるのではないかなと思っています。やはり子どもたちの孤立を防いでいくというのは子ども会にとって大きな役割になっていくのかなというところで認識を新たにしているところです。

青少年指導員の方が、地域で毎朝7時40分くらいから8時50分頃まで毎朝立って見守りをしてくれています。私も昨年11月に会社を退職して時間もありますので、朝犬を連れて見守りをすることで子ども達も寄ってきてくれ、「学校楽しい？」などの話ができたりしています。そういったようにちょっとしたコミュニケーションを取ることが大事なのかなと思います。また、その青少年指導員の方は大人の方にも気持ちよく挨拶してくれているので、地域のコミュニティも非常に活性化し、何かあったときの防災力・防犯力が高まっていくのではないかなと思います。子ども会だけでなく、地域で子どもとコミュニケーションを取っていくということを今年1年間しっかりとやっていきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

#### ○松本委員

青少年指導員連絡協議会の松本です。私たちの活動の中で課題となっているのは、やはり中学生が地域活動に出てきてほしいというところです。以前は学

校にボランティアをお願いすると、個人で出てくることはなかなかないのですが部活単位で出ていただいたということがありました。最近の働き方改革で、なかなか土日の事業に先生が関わって出てくるというのがないというのが少し困ったなというところですね。反対に言えば地域の子ども達に対して魅力的な企画を立てることも地域の課題だと思っています。以上です。

#### ○亀山委員

地域婦人団体連絡協議会から来ました亀山です。私は最近感じたことで、春に公民館まつりや例大祭でオープニングに子どもたちに太鼓を叩いていただいているのですが、その中に、学生服の上に地域の半纏を着ている子どもがいました。中学生もやっつけてくださっているのだなと思ひまして、こういう子たちがこの先太鼓のリーダーになっていただけたらと思います。その前の練習などで携わっている地域の方もたくさんいると思います。これからもそういった公民館祭まつりや例大祭が続くようであれば、太鼓の練習もあると思いますので、そういったことを応援してまいりたいと思います。以上です。

#### ○高木委員

まちぢから協議会の代表として来ております、高木です。今日は青少年に焦点を合わせた素晴らしい事業があることを知りました。まちぢから協議会は主に大人を対象としているので、私自身は小出地区の推進協の方に顔を出して少し情報を聞いているところでございます。子どもたちの居場所として、家や学校と第3の居場所として別のところがあると言われております。第3の居場所というのはスターバックスをはじめたハワード・シュルツという人が言い始めました。しかし今はサイバースペースが子どもの居場所として広がっています。パソコンに向き合い、サイバースペースで多くの時間を費やすことが多くなっているという統計が前回紹介されましたが、そこでは物理的な地域的な境界を超えて世界中とつながって遊び、能力を伸ばし、時に悪いこととつながってしまうという中で、それに対しあまりコントロールはしたくないですが、その中で大人が相談に乗ることができるようなプログラムがあればいいなと思ひました。

また、プログラムで言えば新しい事業として「文化芸術教育プログラム」というのが紹介されましたが、是非科学技術のプログラムも付け加えていただきたいと思ひます。科学者として茅ヶ崎市は野口さんや世界的な真空技術を持っているアルバックなど、そういった職人の方たちに子どもの時から接することで新しい分野への扉が広がると思ひますので、数学・理科の部分も支援してい

けるような新規プログラムも取り組んでいただきたいと思います。以上です。

#### ○秋澤委員

文教大学学生の秋澤です。今回会議に参加させていただき、茅ヶ崎市には文化芸術プログラム事業やジュニアリーダーなど、青少年のための様々な活動があることを知り、青少年の居場所を構成する面でも非常に良い取組ではないかと思えます。今後も、こういった取組を続けていくことで子どもたちにとってより良い地域を構成することができると思っています。以上です。

#### ○亀田委員

文教大学学生の亀田です。よろしくお願ひいたします。

私は、この茅ヶ崎市で生まれ育ったわけではないのですが、ご縁があって茅ヶ崎市で長らく愛されているレストランで今アルバイトをさせていただいています。先日そのバイト先に中学生が職場体験に来て、実際に地域に愛されているレストランで働いてみるという体験が、参加した児童にとって将来的な地域貢献につながるのではないかと思ひ、そういった職場体験も地域貢献につながる取組なのではないかなと思ひました。以上です。

#### ○大江委員

県立高等学校代表、大江と申します。よろしくお願ひいたします。ここでは私が教育活動の中で普段感じていることについて少しお話しさせていただきたいと思ひます。

青少年の活躍できる場や機会ということですが、これは突き詰めていくと、子どもたちが自己有用感をしっかり持つということが大事であるということをご日常頃考えているところがございます。自己有用感を持って、自分をしっかり認められるということ、それが結局他者を認めることにつながると考えております。

今回、居場所ということですが、居場所というのは物理的なものはもちろんあると思ひますが、心の拠り所となる場所があるということなのかなと思ひます。自分が必要とされているというように思えるということが子どもたちの成長にとって大事であると思ひております。例えば、高校でいいますと、部活動がございます。部活動を通して他者と関わり、自己肯定感を高めるということ。例えば本校では、タウンニュースでご紹介していただきましたが、美術部の生徒が美術展で内閣総理大臣賞をいただいたことがありました。その生徒はそれがとても自信になり、友達の前で話したりするのも堂々と話せるようになりま



した。また吹奏楽部が東関東大会に出場することができました。そういったことが地域貢献につながっているかと思えます。生徒会の方では、ちがさき・さむかわこどもファンに声を掛けていただき、審査員を務めたり、また地域のお祭り「南湖みんなでやんべえよ」のボランティアで生徒が携わったりさせていただいたり、あるいは生徒会の子ども達が西浜小学校に行って交通安全教室で寸劇をしたりですとか、そのような関わりをさせていただいております。これらの活動は、部活動や生徒会と申し上げましたが、学校外の活動でもよいのではないかと思っております。女子サッカーでU17のワールドカップにゴールキーパーとして出場した選手もおりますし、K1甲子園で全国優勝した生徒もおります。そういった何か自分が関わることで自信を持って進んでいけると考えることが大事だと思っております。また、地域貢献をすることで地域の方に喜んでもらえるといった体験が、自信につながっています。そういった、生徒が活躍できる場を与えていただいていることを大変ありがたいと思っておりますし、そのようなことがありましたら、是非今後もお声がけいただけたらと思っております。よろしく願いいたします。

#### ○木村委員

市立小学校長代表の木村です。本日は遅れての参加となり大変申し訳ございません。本日は修了式及び離任式でした。ちょうど朝、子どもたちにこの一年間の終わりということで話をしてきたところです。修了証は、子どもたち一人一人の担任から見た良さが書かれておりますので、全て読みまして、そのことについて話をしました。頑張ったことやこの1年でできるようになったこと。そこで子どもたちに問いかけたのが、そのことを思いながら、「それって自分だけの力かな？」ということです。そこには教師、保護者の方がいるかもしれませんが、隣の席の子、同学年の子、上級生、下級生、地域の方、いろんな方が関わっていると思うのです。子どもたちにとって、自分が成長するには関わりというのが大きいなと思っております。ここにいらっしゃるみなさんにも、日頃から市内の小中学校の児童・生徒をいろいろな面で支えていただいていることと思っております。感謝申し上げます。今お話を聞きながら、やはり一番思うのが、学校が子ども達にとって、居心地の良い居場所にしていかなくてはならないということを痛感しております。そのために様々な支援をいただいております。ようやくタブレットが入り、先日なかなか学校にいけない個別支援のお子さんが、タブレットを使って自宅の部屋から支援の担当の先生の授業を受けました。教科の勉強というわけではないのですが、画面上で顔を合わせながら授業ができたことに、大きく一歩前進したと感じております。

また、学校というのは本当に子どもが成長する場ではありますが、悩みを打ち明けられるような場所にしていかななくてはならないと思っております。当然担任、学年、そういったところが主になりますが、相談対応についても市の方の体制として心の教育相談員を配置していただいたり、スクールソーシャルワーカーを配置していただいたり、より多くの目で子ども達を見ていくためにふれあい補助員を配置していただいたり、非常に多くの力をいただいております。そういった方々と協力しながら、みなさんと協力しながら、子どもたちの居心地の良い学校となるように目指していきたいと思います。様々な事業を展開しているとお聞きしました。ニーズが少ないものの中にはあるのかなと思いつながら、でもいろいろなものがあるからこそ、子ども達が輝けると思っておりますので、是非これからもよろしくお願ひしたいと考えております。以上でございます。

#### ○赤坂委員

教育長職務代理者の赤坂と申します。教育委員会も青少年課、公民館などとても良いお仕事をしてくださっていて、茅ヶ崎は青少年の活躍する場や機会は十分に、豊富にあると私は考えております。ただ、そこが問題ではないかなと思います。昨年の報告書を見せていただく中で、素晴らしいなと思うのが、例えば4ページの小和田公民館。浜須賀中学校の生徒を講師にしています。10ページの青少年課体験学習センターについては、高校生を運営スタッフとしてうみかぜテラスのコンサートを実施されています。またはたちのつどい実行委員もそうですよね。お客さんじゃないのです。子どもたちが主体となって、運営母体となって、運営側に回っていく。その中で豊かでたくましい心というのは育っていくと思います。ですから、小学生でもいいかもしれませんが中学生や高校生は運営側に立たせて、そういうような指導などをしていただけたらなと思います。以上です。

#### ○吉原委員

社会教育委員の吉原です。学校の先生の教育者と違って地域の大人が地域の教育者として子どもたちに背中を見せられるようなことを今後私自身も身に付けて行って、子ども達から「あのおばさんなんだ」と何か心を開いていってもらえるような大人になっていきたいなと思っております。以上です、

#### ○岸委員

副市長の岸でございます。ここ3年くらいは本当にコロナウイルスによって

マスクをすることにより行動や人との接触が制限されてきてしまったかなというところで、市としてもコロナのまん延を防ぐ目的でワクチン接種を優先してやってきて、様々なイベントが中止になってしまいました。その中で子どもたちがどういった居場所を作ってきたのかなというところは、小中学生は学校があると思いますが、その学校が休みになってしまったり、苦勞した部分もあったと思います。それは、地域における大人も一緒だと思います。やはり何がほしいのかというところは、いろいろな人と触れ合って会話をする中で自分たちが生きているということを実感し合ってきたのかなと思っています。市長も今年からは様々なイベントを復活させるということでやっていますが、様々なイベントが復活することで、地域にいる子どもたちも参加してくれたり、自分たちが主体的に参加してくれたりすると思いますので、これから様々なことが茅ヶ崎も復活していくのかなと思っています。その中で私は梅田学区ですが、学区でやるイベントについても、できるだけ学校に声を掛けていただいて学校で子どもたちの参加を促したりしていただけると、地域のお年寄りの方たちも子どもたちと一緒にイベントをやることで楽しんで参加して下さるのかなと思っています。

あとは共働きの両親が増えたりしているのも、なかなか親が参加してくれないと地域のイベントが盛り上がっていかないのも、こういったことも含め、地域の活性化ということについては、子どものみならず親の居場所も作っていくことで地域が楽しくなればさらに子ども達も一緒になって楽しんでいけるかなと思います。自分たちも、普段仕事をしているとなかなか地域のことが見えないのですけれど、そんな中で少しでも私も努力していけたらと思います。

#### ○竹内委員

教育委員会教育長の竹内でございます。今日みなさまのたくさんのご意見、また励ましの言葉を教育委員会事務局にいただいたのだなと改めて感謝の思いで聞いておりました。私も本年度ジュニアリーダー研修の方に、一職員として参加させていただきまして、柳島キャンプ場や、宿泊の活動にも子どもたちと一緒にカレー作りもやってまいりました。人数が少ないということはありませんけれども、このコロナ禍で子ども達の居場所やつながりが物理的に非常に薄くなっているのではないかという心配はありました。しかし、参加させていただいて子どもたちがどんどん変わっていく姿を、1日や2日間の中でも強く感じたのです。子どもたちが目標とする本来持っているものは、変わらないな、本質は変わっていないなということを感じたところです。ということは、そうした機会をどう作っていくかということが大事であると。また子どもたち

自身が発達段階において自分たちで居場所を広げていくということもできるのではないかなど、そんな可能性を感じたところでした。

また、皆様からお話しいただいたように、子ども達の居場所というところでは、学校や家庭、地域などというお話もありまして、私はこれがすごく大事な視点であり、基本は家庭の中にあるということだと思います。この家庭をどう支援していくかといったところも、これからの青少年健全育成には大事な視点だなと思いました。その点で、教育委員会の中では様々な家庭の子育ての支援になるような講座や、取組を行っていますが、地域からも様々な取組をしていただいているところで、そのネットワークの目をより狭く細かくしていくことで多くの子どもたちの健全育成につながっていくのではないかなど改めて感じたところです。少しだけご紹介すれば、神奈川県教育委員会で今年中学校の1年生に進学する子どもたち全員に「家庭教育ハンドブック すこやか」というものを、1年生の人数分用意して、コロナ禍に家庭教育はどのようなことを知識として持ったほうがいいのか、こういった取組があるとか、様々な情報が詰められたものが出されているのですね。こんな風に、家庭を支えていく取組を、わたしたち、また子どもの青少年健全育成の中で視点を持っていきたいなと思いをしてきたところです。皆様の多様なご意見がそういったところに大きく活かしていけるのではないかなど、そして教育委員会がいろいろな施策を進めていく上でも、大きな励ましや進歩になるのではないかなど、今日は感謝の思いで聞かせていただきました。ありがとうございました。

#### ○佐藤会長

竹内教育長がまとめをしてくださいました。若干時間がありますが、これだけは言いたいということがある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

では、議題4「その他」でございしますが、各委員の皆様より何かございませうでしょうか。よろしいですか。では、事務局から事務連絡をよろしく願いいたします。

#### ○事務局

次回の青少年問題協議会でございしますが、11月下旬を予定しております。委員の皆様が5月末までとなりますので、このメンバーでの会議は今回で最後となります。5月頃、改めて各団体へ委員推薦の依頼をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。以上です。

○佐藤会長

ありがとうございました。

今日の会議の中で地域という言葉がたくさん出てきました。皮肉な話、コロナになって茅ヶ崎市の人口は増えております。それも子育て世代、あるいは青少年の入口のお子様を育てている方々が増えていきます。一度、聞いたことがあるのです。「なんで茅ヶ崎市を選んだの？なんで藤沢じゃないの？」って。「藤沢は、微妙に、都会なのです」って。「自分たちは都会から越してきたのだから、都会はもういい」って。「じゃあ茅ヶ崎は？」と聞いたら、「茅ヶ崎は、微妙に田舎」と。なんだか褒められているのだから貶されているのだからよくわからなかったのですけれども、この微妙に田舎というのは、実は大変な誉め言葉だったのじゃないかということに、後から気が付きました。というのも、他に東京から越してきた人が、子どもが小さいので小学校まで送り迎えをした。その時に、近所のおばちゃんおじちゃんが、「行ってらっしゃい、気を付けてね」と声を掛けてくれる。今まで東京のマンションに住んでいた時は、同じフロアに誰が住んでいるのかも知らなかった。そのうちに今度は高学年のお姉さんお兄さんが家に寄ってくれて、一緒に行こうと言って、一緒に行ってくれた。なんか嬉しいような寂しいようになって、お父さん言っておりましたけれども、そういった地域が、茅ヶ崎には根強くあるということ、本当に大事にしていきたいと思っています。

今日いただいたご意見を、しっかりとこれからの市政に反映されるべく、頑張っまいますので、これからもどうぞよろしくお願ひします。

それでは、以上をもちまして「令和4年度第2回茅ヶ崎市青少年問題協議会」を閉会させていただきます。

本日は、ありがとうございました。